

# 令和7年度 第5回山城地方 学力向上対策会議を開催しました！



令和7年度第5回山城地方学力向上対策会議を開催し、「教育実践交流会の運営」、「教育実践事例集第34集」、「令和7年度のまとめと令和8年度の方向性」について協議を行いました。今年度最終回となる本会議において、今年度の事業について総括し、次年度も山城地方小・中学校の学力充実・学力向上を目指すための軸となる、「主体的・対話的で深い学びとなる授業改善の視点」について協議を行いました。

- 1 日時 令和8年2月6日（金） 午前10時から同11時まで
- 2 場所 京都府総合教育センター 第2会議室
- 3 出席者 山城地方学力向上対策会議員 21名  
(各ブロック校長会代表、市町連合教育委員会、山城教育局指導主事)



## 令和7年度の総括と令和8年度の方向性について

### 本年度の成果と来年度への方向性

#### 学力向上 対策会議



- 山城地方管内小・中学校における「授業改善による学力の充実・向上」の具体的な方策について協議
- 「やましろ授業スタンダード」(改訂版)の内容確認
- 学力向上に関する取組の円滑な運営に向けて内容検討、協議、役割確認
- 管内学力・学習状況について情報の共有
- ◆全国学力・学習状況調査及び京都府学力・学習状況調査(学びのパスポート)の結果等を踏まえた学力状況に関する情報の共有と課題解決に向けた具体的な手立ての交流
- ◆「やましろ授業スタンダード」(改訂版)等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を組織的に進めるための協議
- ◆学力向上に関する各取組の更なる推進に向けて内容を検討・協議し、役割を確認
- ◆来年度の会長は宇治ブロック、副会長が城久ブロック(小)・綴喜ブロック(中)

#### 教育実践 フォーラム



- 「やましろ授業スタンダード」(改訂版)等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業を公開
- 「学習指導と生徒指導の一体化」「主体的な学びとなる単元構想・授業づくり」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」等の授業改善の視点につながる課題を提起
- ワークショップにて公開授業・授業改善の3つの視点を踏まえ、「単元・授業づくり」や「自校の課題解決についての手立て」についてのグループ協議
- ◆来年度は、「綴喜ブロック」を会場として開催
- ◆「やましろ授業スタンダード」(改訂版)等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める授業を公開
- ◆フォーラムに向けての学校支援
- ◆実施方法やタイムテーブル等、運営方法の検討
- ◆効果的な交流協議の内容や協議の柱の検討

#### 教育実践 交流会



- 実践発表校の優れた実践成果を管内へ波及
- 学力充実・向上に向けた自校の研究・取組をもとにした交流協議
- 授業改善を軸にした組織的な課題解決に向けた検討
- ◆小・中学校別分設会の持ち方について
- ◆実践発表校の支援
- ◆効果的な交流協議の内容や協議の柱の検討



#### 教育実践 事例集



- 実践事例集(第34集)及び「活用ガイド」を発刊。管内小・中学校にデータ配付
- 管内小・中学校の優れた実践を普及
- 活用ガイドを更新し、各校での活用方法を提示
- ◆掲載頻度を各ブロックで平準化。掲載校が毎年変動するため、中学校の事例掲載数に留意して実施

#### 内容の 発信



- 学力向上対策会議での協議内容をホームページに掲載し、各校長会・各小・中学校に発信
- ◆次年度についても、学力向上対策会議での協議内容、取組内容をホームページに掲載し、各校長会・各校へ発信

○成果 ◆課題・方向性



第1回 5/19	・組織体制・年間計画 ・やましろ授業スタンダードの改訂について ・教育実践フォーラム、実践事例集(第34集)、教育実践交流会について
第2回 6/26	・各市町(連合)教育委員会・各校の取組の交流 ・実践事例集(第34集)の掲載校の確認・発行形式について ・「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の実施状況
第3回 11/4	・令和7年度全国学力・学習状況調査結果、京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の分析・活用について ・教育実践フォーラムの運営について ・教育実践交流会の内容について
第4回 11/14	・山城地方教育実践フォーラムの運営
第5回 2/6	・令和7年度のまとめ及び令和8年度の方向性について ・学力向上を目指す教育実践交流会の運営について

その他 局事業(指導主事計画訪問、学校力向上トライアル、教育実践リーダー育成研修等)においても「組織的な授業改善」を推進

# 令和7年度 山城地方 学力向上を目指す 教育実践交流会 を開催しました！

4つの分散会に分かれて山城管内小・中学校の実践発表を聴きました。「実践事例を自校に取り入れるには」という発想ではなく、各発表校の目指す姿と現状から、どのように自校の課題を見出し、どのように全員で共通理解を図っているか等、事例を構造的・概念的に捉え、分散会Ⅱにおいて自校の課題改善の方策に照らしながら参加者同士で交流・協議を行いました。

第1分散会	京田辺市立桃園小学校	藤原 幸子 教諭	ふれて、しみて、みがく感性 ～手がかりをもとに、表現を工夫できる力の育成～
	井手町立泉ヶ丘中学校	前田 拓哉 教諭	誰一人取り残さない学校教育の推進
	相楽京都広域連合立笠置中学校	花木 貴志 教諭	すべての生徒の学習意欲向上と基礎学力の定着をめざして ～個別最適な学びを定着させた非認知能力の育成～
第2分散会	八幡市立美濃山小学校	中川 博登 主幹教諭	「すべての子どもが『わかる』『できる』『学びを学ぶ機会づくり』 ～基礎科の授業を通して～
	宇治市立北宇治中学校	横井 照博 教諭	全ての子どもたちの可能性を引き出す。 個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す。
第3分散会	宇治市立木樨中学校	佐藤 泰成 教諭	一人一人に合った学びと『わかる』『できる』『見える』授業の実現
	木津川市立南加茂台小学校	尾崎 まどか 教諭	自ら学び、主体的に課題解決に取り組み活発な育成 ～学ぶ楽しさ できる喜び～
第4分散会	城陽市立寺田西小学校	中村 純子 教諭	「題目も学びたい学校」をめざして
	精華町立精華南中学校	服部 良輔 教諭	多様な学びを通して高め合う集団づくり ～非認知能力の向上を目指して～

## 分散会Ⅰ

- ①アイスブレイク
- ②実践発表
- ③グループ交流
- ④質疑応答
- ⑤指導助言

### ◆実践発表を聴くときのポイント

- ①その学校の「目指す姿」に対して、「現状」はどうだったか
- ②目指す姿と現状のギャップを埋めるために、何（組織、人、取組、重点研究、授業改善等）をどうしたか
- ③その実践をどのように検証し、次につなげたか(つなげようとしているか)

優れた実践をインプット

グループで意見交流  
自分の考えをアウトプット

見方・考え方を  
深めてメタ認知



・どちらの学校も、共通して、教師の課題意識から研究が行われていた。それによって、教師自身も主体的に研究に関わり、自己調整がはたらかし、気付きや学びを共有しながら、認知能力・非認知能力を一体的に育てている流れが参考になった。

・支援を必要とする生徒層への手立てを考えていきたいです。指導事後の生徒アンケートの実施による実態把握と検証のサイクルの構築をしていこうと思いました。

・調査結果をもとに学校の課題を明確にし、それを改善する体制に変える。その結果として、学校教育目標を達成していこうというシンプルな流れが分かりやすく参考になった。

・学力を高めるには、まずは自校の児童の強みや課題を分析し、どのような手立てが有効か考える必要がある。その手立てを全職員が共有認識し、年度途中にも見直し、再度手立てを考えることで、児童の基礎・基本の力がついてくると思う。

・前向きに取り組める、同じ方向で研究を進められる組織にするために、「課題意識の共有」「トップダウンではなくボトムアップ型の進め方」「教員全員を巻き込んで一緒に悩む」という3つが必要なのではないかと考えた。

・基礎学力がないと、練習合いや深い学びにつなげることは難しいと話していた。授業改善や家庭の協力も必要であるし、子どもたちが自分に必要だと考えられる学びを提供することを必要だと感じた。また、研究を通してそうだが、若手教員などはそれ以前のことで悩んでいることもあると感じるので、教師が話し合える温かな雰囲気と力を発揮できる動きがほしいと感じるようになっていきたい。



自校の  
組織的な課題改善の  
手立てを考える

各校の実践研究を共有

参考になった取組を全体でシェア



- ①アイスブレイク
- ②グループ交流
- ③全体交流
- ④グループ協議

## 分散会Ⅱ